

(別紙 4)

サンキューグリーンスタイルマーク使用登録状況について

木づかい運動のロゴマーク「サンキューグリーンスタイルマーク」は、民間企業や NPO 等の幅広い主体に積極的に使用していただくことを目的としています。



1. マーク使用登録状況(9月20日現在) 117件

2. ロゴマーク使用登録企業・団体の取組事例

(1) 間伐材等を混入した間伐紙による印刷物の作成

(株)ローソンでは「ローソン花と緑の日」に店頭で配布する花のたねの台紙や、環境報告書などに間伐紙を採用。

さらに、「緑の募金」箱へのロゴマークの掲示、国産材を使用した割り箸の配布(ナチュラルローソン)や、地元木材を使用した木造店舗の建設など、幅広い取組を展開。

(2) 紙製飲料容器「カートカン」

「森を育む紙製飲料容器普及協議会」(もりかみ協議会)が普及を進める紙製飲料容器「カートカン」は、間伐材や端材などの国産材を30%以上使用した製品であり、国産材の活用に貢献。

また、「カートカン」は平成18年度エコプロダクツ大賞エコプロダクツ部門農林水産大臣賞を受賞。

(3) 間伐を促進する紙の普及

オフィス古紙の共同回収に取り組む「環境NPOオフィス町内会」は、企業等が印刷物を製作する際に、間伐促進費を上乗せした「間伐に寄与した紙」を、環境貢献の一環として使うことで、間伐を促進するシステムを構築。現在、岩手県岩泉町と連携し、森林と企業などをつなぐ「森の町内会」活動を本格実施。「森の町内会」方式が間伐促進のモデルとして全国に定着することを目指している。

(4) 森林整備で産出された間伐材の利用

アサヒビール(株)では、社有林「アサヒの森」の間伐から産出された間伐材を活用し、営業案内用の木札やテーブルスタンド等の販促物を制作しているほか、9月からは、都内グループ飲食店10店において、割り箸としても7万膳使用している。

(株)ジャパンエナジーは、社員らによる森林整備作業で産出された間伐材を活用した文房具「JOMO ふれあいの森シリーズ」を年4回程度制作し、JOMOステーションに配布。